

平成 28 年度 事業報告書

1. 競技普及に関する事業

(1) 挑戦の継続と目標

平昌五輪大会を来期に控え様々な挑戦と厳しい現実が混在する年となった。五輪に出場することから、五輪でメダル・入賞を勝ち取ることに目標を据えて 3 年となり、その真価を競技結果で示す時期となった。ボブスレーは新たに強力な指導者を迎え、急速に競技力向上の機運が見えた。リュージュは唯一の強化指定選手が秋に突然の競技引退を表明し、次世代のユースアスリートの育成に方針転換をした。スケルトンは競技結果が今一つの中で、ユースから楽しみな選手が育ってきた。

28 年 10 月から長野市で議論が始まったスパイラルのあり方に関し、29 年 4 月に「平昌五輪以降、冬季の製氷を一時休止する」決定がなされた。国内唯一のトラックの休止は競技普及、育成、強化に大打撃となることが予想されるもので、関係機関に競技場機能の維持をお願いしていくこととなる。

(2) 公益法人として貢献

公益法人 2 年目となり、競技を通して実際に我々は人々に恩恵を与えられるよう取り組みをしてきた。今期は各地でこの競技の体験会を開催し、主に若い人々に滑走の楽しさや素晴らしさを知ってもらった。体験会から競技の門をたたく人が増えるよう各地連盟と引き続き継続した取り組みを実施していく。他競技のアスリート情報収集を行い大学生中心に選手発掘のトライアウトを数回開催し、その中からワールドカップ大会の主力選手を輩出できた。指導者育成システムは定着してきており今期も複数名が公認コーチ資格取得をし、今後の選手育成にあたる指導者が徐々に増えてきている。審判資格講座、試験を通じて大会運営に多くの方々に参加した。スパイラルの一時休止で不安定要素が高まるなか、29 年度の各大会には新たな審判員、運営関係者を招き入れ経験をしてもらうことが必要となる。

(3) 財源計画の充実

公益法人として自主財源の計画的な見通しと確保は大変重要となる。すべての理事、役員は免税となる寄附集金ができることの認識をもって今後の財政運営にあたらなければならない。今期も大口寄付と補助金・助成金が収入の大部分を占めており、当連盟の維持発展には中長期的な財源計画を立てる必要がある。継続的なスポンサー発掘、参加者を対象にした負担金の拡大、数多くの寄附者の定着などの財政基盤の確立に取り組まなければならない。今期は継続的な財政計画を作成することができず今後の大きな課題である。

2. 競技力向上事業

2018 平昌五輪に向けた競技力向上および 2022 北京五輪を見据えたトップアスリート育成のそれぞれの事業を実施した。

(1) 平昌五輪に向けたナショナルチームの選抜と強化

競技部ごとに強化目標を定め海外派遣選手の選考プロセスに則り選考会を実施した。

ボブスレー競技は10月に新たにハンス HC (ヘッドコーチ) とハートル AC (アシスタントコーチ) をドイツから迎えた。各選考事業を経て資質・能力に優れた選手を選抜・強化し、ハンス HC の指導の下で EC (ヨーロッパカップ) を転戦し EC (ケニクゼー) 優勝をおさめた。後期は WC (ワールドカップ) を転戦し、女子の押切・君嶋チームが、2月に開催された WCH (世界選手権) で7位という過去最高位をおさめた。

リュージュ競技は唯一の強化指定の金山選手が秋に突然の引退を表明し、ジュニア世代の強化に方針変更をした。

スケルトン競技は海外派遣選手選考基準を精密に作成し、これに則り世界選手権、WC、ICC (インターコンチネンタルカップ)、NAC (ノースアメリカンカップ) に代表選手を選考、派遣した。競技結果の低調感は否めないものの、目標達成項目は複数あった。

平昌五輪プレ大会となる WC が3月に開催され、ボブスレー、スケルトン共に代表選手を派遣し五輪トラックでの競技滑走をした。

(2) 北京五輪に向けたジュニアナショナルチームの選抜と強化

北京五輪そして以降の五輪までを俯瞰して育成事業に積極的に取り組んだ。

リュージュ競技は複数名の参加者でスパイラルにおいて冬季国内強化合宿を二回実施した。選抜した強化指定2名の選手を2回(リレハンメル、レイクプラシッド)の海外合宿に派遣し、強化にあたった。

スケルトン競技は NAC に複数名のジュニア選手を派遣した。宮嶋選手が NAC (ウィスラー) で優勝しシーズン中に WC で転戦したことは大きな収穫であった。

(3) 指導者育成プログラムと強化委員会メンバーとの連携強化

今年度は競技委員会メンバーと協議のうえコーチ資格取得を促し、その結果公認コーチ5名が新規取得者となった。

(4) 有望選手(タレント)の発掘・育成・強化

ボブスレー女子のブレーカー有望選手の獲得を最重要課題として、強化部と人材開発部が連携して情報収集と折衝を経てトライアウトを実施した結果、質の高い新戦力となる競技者を獲得した。国内での選考とプッシュスタートの体験実施、ドイツでの氷上トレーニングから実戦にはいり EC 優勝、WC、世界選手権の競技結果の向上の原動力の一つとなった。

(5) 人間力を高める教育プログラムの導入

4月に行われた JOC 冬季競技研修会と、その前後に連盟独自のプログラムを以って教育プログラムを実施した。冬季五輪が目前に迫り世間の耳目も集まるなか、継続的に日常の教育も行っていく必要がある。

(6) 医・科学サポート事業の推進

世界アンチ・ドーピング機構主催の講習会に参加し情報収集を十分行い、オリンピック強化指定選手を指導するとともに、啓蒙活動を実施した。スパイラル通信で医科学情報の発信につとめた。

(7) 海外優秀コーチの育成・強化プログラムの有効活用

ハンス HC、ハートル AC からボブスレーのプッシュ技術、滑走技術、マテリアルの設定と補修等々多くのプログラムを提供いただき、選手・スタッフ共に大変収穫の多いシーズンとなった。

(8) 「アスリートパスウェイの戦略的支援」委託事業の公募への申請と実践

日本スポーツ振興センターの「アスリートパスウェイの戦略的支援」委託事業へ応募したが残念ながら不採用となった。

スポーツくじ助成金「将来性を有する競技者の発掘育成活動助成」へ応募申請し採択をいただいた。29年度事業で活用する。

3. 本年度公認大会

(1) 国際大会（会場：長野スパイラル）

大会期間	種別	大会名
28. 12. 21～23	L	第2回 アジアリージュ選手権大会

(2) 国内大会（会場：長野スパイラル）

大会期間	種別	大会名
28. 8. 7	S	2016 全日本プッシュスケルトン選手権大会
28. 8. 7	B	2016 全日本プッシュボブスレー選手権大会
28. 12. 16～17	S	2016/2017 全日本スケルトン選手権大会（予選）
28. 12. 21～25	B	2016/2017 全日本ボブスレー選手権大会
28. 12. 21～23	L	第50回 全日本リージュ選手権大会
28. 12. 23～25	S	2016/2017 全日本スケルトン選手権大会（本選）
29. 1. 21～22	B・L・S	第8回 JBLSF チャレンジカップ大会
29. 1. 21～22	B・L・S	第24回 JOC ジュニアオリンピックカップ競技会

※B…ボブスレー、L…リージュ、S…スケルトン

4. 審判資格取得研修会、養成講習会

各加盟団体の主催による審判資格取得研修会等が以下のとおり行われた。

これらの講習会により、3名が審判員資格を取得した。

年月日	連盟	種別	会場	研修会名
28.10.29	大阪	B・S	サンライフ明石(兵庫県明石市)	審判・ルール講習会
27.11.19~20	長野県	B・S・L	県連事務局(長野県長野市) スパイラル(長野県長野市)	審判員資格取得講習会 審判クリニック研修会

※B…ボブスレー、S…スケルトン、L…リュージュ

5. 各関連会議

(1) 国際会議

2016.6.10-13 IBSF コンgress ロンドン イギリス

2016.6.16-19 FIL コンgress レイクプラシッド アメリカ

(2) 国内各種会議

日本オリンピック委員会（評議員会、総務委員会、選手強化本部委員会ほか）、
日本体育協会（評議員会）、日本スポーツ振興センター（振興基金、振興くじ）、
ナショナルトレーニングセンター（運営委員会）、国立スポーツ科学センター、
アンチ・ドーピング機構、等出席

6. 委員会事業

(1) 総務委員会

事業計画の取りまとめ、予算策定、予算執行、事業報告取りまとめ、決算の各業務を行った。公益社団法人として最初の予算、決算に関し内閣府との対応をもって要諦、注意点が顕在化した。

諸規定の見直し作業に入り早期に実施すべく工程表を作成して準備に入った。他のNFから情報収集を行い、当連盟の規定見直しの参考とさせていただいた。

選手証、指導者証、審判員認定証を継続作成し登録管理を行った。

国際連盟や国内関係団体との連絡、調整にあたりとともに諸会議に出席した。

JOC、JS、TOTO くじからの事業助成金申請及び事業報告を行い、収入を確保した。

一部選手からスポーツ仲裁機構への提訴がなされ、顧問弁護士と協議の上で対処し和解で結審した。

(2) 競技委員会

【競技強化部】

《ボブスレー部》

◆国内事業

第1回国内合宿 日時：平成28年6月9日(木)～12日(日) 長野市スパイラル

第2回国内合宿 日時：平成28年9月8日(木)～11日(日) 長野市スパイラル

全日本プッシュボブ選手権 日時：平成28年8月7日(日) 長野市スパイラル

コンバインテスト 日時：平成28年8月8日(月) 長野市陸上競技場

◆2016—2017 シーズン遠征スタッフ及び結果

・ヘッドコーチ ハンス ・コーチ ハルトル ・通訳 ロルフ

・マテリアル 宮本利成 ・セラピスト ニコル(非常勤)

◆ボブスレーヨーロッパカップ第3戦ケニグゼー(ドイツ)大会

【男子】日時：平成28年11月12日(土) AM10:00～(現地時間)

28位 浅野・佐々木 ①52.97 ②予選落ち

【女子】日時：平成28年11月12日(土) AM14:00～(現地時間)

10位 押切・坂内 ①52.65 ②52.84 合計1:45.49

14位 浅津・川崎 ①53.55 ②53.93 合計1:47.48

16位 本間・松本 ①53.78 ②54.15 合計1:47.93

◆ボブスレーヨーロッパカップ第4戦ケニグゼー(ドイツ)大会

【男子】日時：平成28年12月2日(金) AM9:00～(現地時間)

28位 浅野・佐々木 ①52.01 ②予選落ち

33位 中村・伊藤 ①52.70 ②予選落ち

【女子】日時：平成28年12月2日(金) AM14:00～(現地時間)

1位 押切・君嶋 ①51.54 ②52.03 合計1:43.57

5位 浅津・川崎 ①52.09 ②52.26 合計1:44.35

9位 本間・日下 ①52.34 ②52.84 合計1:45.18

◆ボブスレーヨーロッパカップ第5戦ケニグゼー(ドイツ)大会

【女子】日時：平成28年12月3日(土) AM9:00～(現地時間)

3位 押切・君嶋 ①51.74 ②51.97 合計1:43.68

7位 浅津・川崎 ①51.90 ②52.65 合計1:44.55

10位 本間・日下 ①52.39 ②53.17 合計1:45.56

◆ボブスレーヨーロッパカップ第6戦アルテンベルグ(ドイツ)大会

【女子】日時：平成28年12月16日(金) AM9:00～(現地時間)

8位 押切・坂内 ①58.86 ②59.08 合計1:57.97

9位 本間・日下 ①59.66 ②59.86 合計1:59.52

11位 浅津・川崎 ①60.65 ②61.27 合計2:01.92

- ◆ボブスレーワールドカップ第4戦アルテンベルグ(ドイツ)大会
 【女子】日時：平成29年1月6日(金) AM14:00～(現地時間)
 12位 押切・川崎 ①58.16 ②58.49 合計1:56.65
 13位 本間・日下 ①59.23 ②59.44 合計1:58.67
- ◆ボブスレーワールドカップ第5戦ウインターベルグ(ドイツ)大会
 【女子】日時：平成29年1月13日(金) AM14:00～(現地時間)
 15位 押切・坂内 ①58.58 ②58.58 合計1:57.16
 19位 本間・川崎 ①59.16 ②58.96 合計1:58.1
- ◆ボブスレーヨーロッパカップ第7戦サンモリッツ(スイス)大会
 【男子】日時：平成29年1月13日(金) AM9:00～(現地時間)
 22位 浅野・佐々木 ①70.14 ②予選落ち
 【女子】日時：平成29年1月13日(金) AM10:41～(現地時間)
 4位 浅津・君嶋 ①70.79 ②70.20 合計2:20.99
- ◆ボブスレーワールドカップ第5戦サンモリッツ(スイス)大会
 【女子】日時：平成29年1月21日(土) AM9:04～(現地時間)
 12位 押切・君嶋 ①69.13 ②68.84 合計2:17.97
 17位 浅津・坂内 ①70.01 ②69.87 合計2:19.88
 19位 本間・川崎 ①70.16 ②69.98 合計2:20.14
- ◆ボブスレーワールドカップ第6戦ケニグゼー(ドイツ)大会
 【女子】日時：平成29年1月27日(土) AM10:00～(現地時間)
 10位 押切・君嶋 ①51.04 ②51.33 合計1:42.37
 18位 本間・川崎 ①52.03 ②52.35 合計1:44.38
 19位 浅津・坂内 ①52.19 ②52.23 合計1:44.42
- ◆ボブスレーヨーロッパカップ第8戦ウインターベルグ(ドイツ)大会
 【男子】日時：平成29年1月24日(金) AM9:00～(現地時間)
 22位 浅野・佐々木 ①57.51 ②予選落ち
- ◆ボブスレーワールドカップ第7戦イーグルス(オーストリア)大会
 【女子】日時：平成29年2月4日(土) AM15:04～(現地時間)
 15位 押切・君嶋 ①53.86 ②53.96 合計1:47.82
 21位 浅津・川崎 ①54.48 ②予選落ち
- ◆ボブスレー世界選手権ケニグゼー(ドイツ)大会
 【女子】日時：平成29年2月18日(土) AM15:19～(現地時間)
 7位 押切・君嶋 ①51.92 ②51.65 ③51.34
 ④50.91 合計1:47.82
 21位 浅津・川崎 ①52.65 ②52.64 ③52.17
 ④予選落ち

◆現状認識

- ・世界トップレベルに通用するスプリント能力を有した選手がいない
- ・世界トップレベルに通用するパイロット技術を有した選手がいない
- ・世界トップレベルの材料が徐々に確保できつつ有る
- ・選手の競技環境の冷遇

◆反省

- ・世界トップレベルに通用するスプリント能力を持つ選手の勧誘が出来ていない
- ・世界トップレベルに通用するパイロット技術を得るために長期的戦略の欠如
- ・世界トップレベルの国との情報交流不足
- ・チーム及び組織の未成熟
- ・スポンサー不足
- ・情報発信能力の欠如

◆課題

- ・**世界トップレベルに通用するスプリント能力を持つ選手の確保
(平昌五輪に向けて最重要課題)**
- ・世界トップレベルに通用するパイロット技術を得るために長期的戦略の構築
- ・世界トップレベルの国との情報交流・連携拡充
- ・チーム及び組織のビルドアップ
- ・スポンサー対策
- ・情報発信能力の巨大化
- ・高性能材料の確保及び開発支援
- ・一貫指導体制の構築
- ・選手の競技環境の充実(金銭面及びセカンドキャリア)

《リージュ部》

◆ 初めに

平成 28 年度当初の事業計画では、オリンピック前年度ということもあり、シニアトップ選手の金山選手の海外遠征事業と、ジュニア選手強化事業の 2 つの柱で事業を計画した。しかし、8 月下旬に金山選手から事実上引退の連絡があり、シニアの海外遠征事業を全て中止し、全予算をジュニア選手強化にシフトしたかたちで事業計画を変更した。

当初事業

		変更後
シニア前期海外遠征	→	中止
シニア後期海外遠征	→	中止
ジュニア冬季国内強化合宿①	→	期間延長
ジュニア冬季国内強化合宿②	→	変更なし
ジュニア前期海外合宿	→	変更なし

新規事業

ジュニア後期海外合宿

◆ 国内事業

【リージュ ジュニア 冬季国内強化合宿 ①】

日程	12 月 12 日～12 月 21 日		
参加選手	長野連盟	小林誠也(中 3) 新野彩季(中 3) 石川雪姫(中 2) 青谷知倬(中 1)	
	北海道連盟	大高柚衣(中 1) 宮下七海(小 6) 三浦いなせ(小 6)	

目標・目的

合宿後に開催される全日本選手権およびアジア選手権の B クラスに参加することを目標とし、小学 6 年生から中学 3 年生まで 7 名の選手が参加。

合宿内容

滑走技術の向上とコース攻略、ソリに関する知識とメンテナンス方法の習得など、リージュ競技を続ける上で必要な技術と知識の習得。また、学校生活とは別の集団生活の中で、あいさつ、自覚を持った行動、時間厳守など、選手としての自覚と規律を学ぶ場としての合宿となった。

成果

各選手が目標とする大会のスタート位置まで上がり、尚且つ、ある程度の安全を確保した滑走が出来るようになった。

H27年度とH28年度の滑走タイムの比較

氏名	スタート位置	H27年度	H28年度	タイム差
小林 誠也	男子スタート	54.374	52.654	-1.72
新野 彩季	女子スタート	55.127	53.989	-1.138
石川 雪姫	H27Jr H28女子	54.469	55.030	
青谷 知倖	Jr スタート		DNS	
大高 柚衣	Jr スタート		52.191	
宮下 七海	Jr スタート	65.262	54.315	-10.947
三浦 いなせ	Jr スタート		51.629	

※男子および女子スタート→全日本選手権 Jr スタート→アジア選手権 Bクラス

【リージュジュニア 冬季国内強化合宿 ②】

日程 1月12日～1月20日

参加選手 長野連盟 小林誠也(中3) 新野彩季(中3) 石川雪姫(中2)
 青谷知倖(中1) 石川蒼太(小6) 高間大世(小5)
 北海道連盟 大高柚衣(中1) 宮下七海(小6) 三浦いなせ(小6)

目標・目的

ジュニア選手の選考基準対象大会 JOC ジュニアオリンピックカップに向けて、更なるスキルアップ、滑走タイム向上を目的とし、小学5年生から中学3年生まで9名の選手が参加。

合宿内容

各選手が12月の合宿での問題点を整理し、練習に取り組んだ。12月1月と氷上滑走に重点を置いた強化を実施したことで、より速く滑走することに必要な要素を自分自身で見出すことが出来たと感じている。滑走練習だけでなく、それ以外の時間にどのような練習が必要で重要なのかを学ぶ場となった。

成果

各選手共に12月の滑走タイムを上回る結果となった。タイム向上の背景には、12月から継続して滑走できたことによる経験の蓄積、滑走内容の分析と反省、対処すべき体の反応が早くなった事があると考えられる。

氏名	比較タイム	大会タイム	タイム差	比較大会
小林 誠也	50.038	47.412	-2.626	H27JOCJ r
新野 彩季	50.448	48.043	-2.405	H27JOCJ r
石川 雪姫	53.260	49.539	-3.721	H27JOCJ r
青谷 知倅		62.945		
大高 柚衣	52.191	49.921	-2.27	H28 アジア B
宮下 七海	54.315	50.684	-3.631	H28 アジア B
三浦 いなせ	51.629	50.199	-1.51	H28 アジア B
石川 蒼太	52.754	50.790	-1.964	H28 アジア B
高間 大世		DNF		

※JOC ジュニアオリンピックカップ

◆ 海外事業

【前期海外合宿】

日程 10月29日～11月12日
参加選手 長野連盟 小林誠也(中3) 新野彩季(中3)
場所 リレハンメル

目標・目的

長野以外のコースでの経験を積むことと、どの程度新しいコースに順応できるかを検証することを目的とした。

合宿内容

海外合宿に参加した強化指定選手2名については、初めての海外合宿となった。食事や文化、環境の変化に戸惑いながらも、意欲的に練習に取り組んだ。

成果

コースの違い苦戦しながらも、技術・体力・精神面で十分な成長を見せてくれた。また、FILジュニアチームやスウェーデンのジュニアチームと練習を共にすることができ、海外選手の中でも引けを取らないタイムを出せていたことは、彼らにとっても大きな自信につながり、また新たな課題を見出す機会にもなった。

【後期海外合宿】

日程 3月19日～3月31日
参加選手 長野連盟 小林誠也(中3) 新野彩季(中3)
場所 レイクプラシッド

目標・目的

海外のコースの経験と、スタート練習を目的とし、前期海外合宿と同じ選手が参加した。

合宿内容

この合宿では、アメリカナショナルチームの協力もあり、アメリカチームと共に滑走練習することができた。アメリカチームには WC 上位常連の選手も多数在籍し、世界の上位選手と交流できた事で、選手にとって大きな刺激と目標となった。

また、世界屈指のテクニカルなコースということもあり、合同で練習できたことは、大きな経験になった。

アメリカ連盟内にあるスタート練習場も使用することができ、スタートに特化した練習も組むことが出来た。

宿泊施設も US オリンピックセンターを使用できたので、早朝の体力トレーニング、食事、筋力トレーニングなど、充実した合宿内容となった。

成果

滑走練習だけでなく、他の選手の滑走を見る事も大切な練習と理解できた。また、集中してスタート練習が出来た事がタイムの向上にも直結した。2度の海外合宿を経験し、合宿に取り組む姿勢に変化が見られた。

総評

合宿を通じ、選手としての自覚を持たせることで、あいさつや時間を守る事など、自覚と規律を学んだと思う。そこから、今自分にできることを、考え実行することが少しずつ出来てきている。また、各選手が様々な課題を見つけ、克服することで、着実に滑走タイムの向上が見られる。

※1例 強化指定選手の H27 年度と H28 年度のタイムの比較

氏名	スタート位置	H27 年度	H28 年度	タイム差
小林 誠也	男子スタート	54. 374	52. 654	-1. 72
新野 彩季	女子スタート	55. 127	53. 989	-1. 138

今後の強化のポイントとして、全選手の共通した課題がある。スタート動作の習得・筋力強化・栄養管理・股関節及び肩周囲の可動域の向上が求められる。また、語学力や生活環境のコーディネーション能力向上も課題といえる。

《スケルトン部》

◆成果

- ・WC大会の最高成績、小室選手9位、高橋選手14位、宮嶋選手16位を獲得した
- ・ICC大会の最高成績、小口選手4位、小室選手5位、笹原選手8位を獲得した
- ・NAC大会の最高成績、宮嶋選手優勝、有明選手8位を獲得した

◆目標達成の有無

- ・WC目標（男子10位以内、女子12位以内）に対して、単一レース結果では男子未達成、女子達成、総合（WCランキング）では男女共に未達成
- ・ICC目標（男子6位以内、女子6位以内）に対して、単一レース結果では男子未達成、女子達成、総合（ICCランキング）では男女共に未達成
- ・NAC目標（男子6位以内、女子6位以内）に対して、単一レース結果では男子達成、女子未達成、総合（NACランキング）では男子達成、女子未達成

◆評価

- ・WC（高橋選手、小口選手、小室選手）について、滑走技術に大きな課題がある。ピョンチャン五輪目標（男子6以内、女子8位以内）を達成するには、男女共に1本当たりスプリントタイム0.07秒、滑走タイム0.80秒の短縮が必要である。スプリントタイム向上の可能性は十分ある。滑走タイム向上については、用具の変更（旧式から新式）を行うことで可能性は高まると考える。
- ・ICC（笹原選手、小口選手、小室選手）について、現状のスプリント力、滑走技術でも6位以内に入れることは証明されている。しかし、ICCで3位以内（WC16位以内相当）に入るにはスプリント力、滑走技術の更なる向上が必要である。
- ・NAC（ジュニア選手）について、宮嶋選手はタレントとして将来有望な選手である。但し、今後上のクラスで活躍するにはスプリントタイムを0.30秒速くしなければならない。その他の選手については、まだ経験が浅いことから今後時間を掛け、基礎から徹底して学ばせ将来の可能性を見極めていく必要がある。

◆反省

- ・最高峰のWC大会で戦う為のスプリント力が少し足りない
- ・最高峰のWC大会で戦う為の滑走技術力が足りない
- ・チームワークが不足している
- ・一貫指導が構築されていない為に選手の体力、技術、意識に大きな差がある

◆課題（含む、ピョンチャン五輪目標達成課題）

- ・国内合宿の実施
- ・チームワークの構築
- ・スプリント力の向上（ピョンチャン五輪目標男子6位以内、女子8位以内を獲得するには、男女共に0.07秒の短縮必須）

- ・滑走技術の向上(ピョンチャン五輪目標 男子6位以内、女子8位以内)には、男女共に0.80秒の短縮必須)
- ・用具の購入、開発
- ・外国チームとの連携拡充
- ・競争原理の構築(若手選手の強化、巧緻性に優れた選手の発掘)
- ・一貫指導体制の構築

《指導者養成部》

◆平成28年度 公認コーチ取得者について

本年度の専門科目は、新規受講者は7名、以前からの受講者3名の計10名で実施した。

本年度も以前からの受講者の科目を優先的に実施するように配慮し、3名中2名(脇田、進藤両氏)は今年の受講を完了した。新規取得者及び次年度へ継続して受講する方は下記の通りである。

※28年度新規取得者

【北海道連盟】脇田寿雄

【宮城県連盟】進藤亮祐

【長野県連盟】小林大祐

【大阪府連盟】白谷依子、佐藤友恵 以上5名

※29年度継続受講者

【北海道連盟】宮本利成(実技3科目)

【長野県連盟】松原達郎(基礎理論2科目、実技2科目)

木下良弘(基礎理論4科目、実技1科目、指導実習1科目)

【大阪府連盟】間野史子(基礎理論4科目、実技1科目、指導実習1科目)

川島誉子(基礎理論6科目、実技2科目、指導実習2科目) 以上5名

◆平成29年度 公認コーチ受講について

新規受講者は以下の6名である。

【北海道連盟】高間晋、鈴木寛、城田仁、佐高博之

【長野県連盟】田山信輔

【大阪府連盟】與治希(旧姓 黄瀬希) 以上6名

※29年度継続受講者を加えて、専門科目講習を実施する予定である。

◆28年度の専門科目受講に関して

- ・28年度は、9月、11月、1月の3回に分けて専門科目を開講した。
- ・日程を組む中で、審判講習会や体験会補助を入れながら、それぞれの講習内容を深める手立てを講じてきた。また種別に拘らずに、全ての種目を学ぶ機会を取ってきた。受講者にとっては、良い経験になり理解が深まった等の感想を得ることができた。専門科目らしく受講内容を考えることが必要であることが、改めて示唆されたと考える。

- ・28年度講師は、日本連盟所属上級コーチ並びに日本連盟専門委員長に担当を頂き、日程調整しながら進めてきた。また指導者養成部員を増員してその指導と指導補助に当たった。指導者養成部員の協力もあって、講師の日程調整にやや難があったが、28年度は比較的スムーズに運営できたと考えている。
- ・専門科目に関しては、講師各位の資料に基づき実施した。現場でなければ見られないものもあり、テキスト化は本年度も困難であった。29年度以降にテキスト化をどうするか、検討課題としたい。

◆29年度講習及び更新講習について

- ・来年度以降は、新規受講者が5名程度いなければ、その年度は開講しない等の措置が必要ではと考える。
- ・競技委員会各部会メンバーで冬季の受講が困難な者もあった。来年度は、専門科目の夏季開催を検討したい。(8月、9月 or 11月、1月)
- ・既に資格取得をした者に対する更新講習会に関しては、日体協主催の全国研修会(12月開催)並びに各都道府県協主催の指定研修会を受講して頂くように依頼していく。告知は、日本連盟事務局より行う予定である。また日体協指導者マイページへの登録、確認を実施して頂く。

《人材開発部》

平成28年度の活動として計画した内容は、「選手発掘」「若手選手の育成」「選手教育」「その他」であった。概ね計画通りの内容であったが、一部、年度途中で新たに追加した活動も含めて、実施内容および成果について報告する。

目標達成率

- ・選手発掘 80% ボブスレー女子ブレイカー有望選手を発掘できた。
準備期間が足りず、北京以降に向けた発掘が継続課題として残った。
- ・若手育成 70% 育成合宿を始め、高いレベルの講習を行うことができた。
基礎的内容にとどまったため、今後さらなるレベルアップが必要。
- ・選手教育 80% 育成合宿の教育プログラムにより選手の知識、理解が深まった。
- ・その他 90% スポーツくじ助成金により次年度の活動費を得ることができた。

◆選手発掘

【結果】

- ・ボブスレー女子ブレイカー発掘

トライアウト	日本体育大学 (7/28. 29)	27名参加	5名通過
	長野市 (8/8)	3名参加	2名通過
⇒海外派遣選手	3名	坂内選手、松本選手、君嶋選手	
保留	1名	小川選手	

発掘選手の国際レース結果

君嶋選手 EC 優勝 WCH 7 位

坂内選手 EC8 位 WCH 21 位

・NTID トライアウト参加 (11/19.20 12/3.4) 6 名通過

⇒来年度検証プログラム実施予定

【成果】

- ・最優先課題と位置付けたボブスレー女子ブレイカー発掘について、3名の発掘選手が選考を経て海外レースに派遣された。
- ・発掘選手の君嶋選手が EC 優勝、WCH7 位の好成績を収めた。
- ・日本スポーツ振興センター、日本体育大学を中心とした機関と連携した発掘ができた。
- ・来年度につながる連携が構築できた。

【反省】

- ・北京オリンピック以降を目指した選手発掘は結果につなげるまでに至らず次年度への継続課題となった。

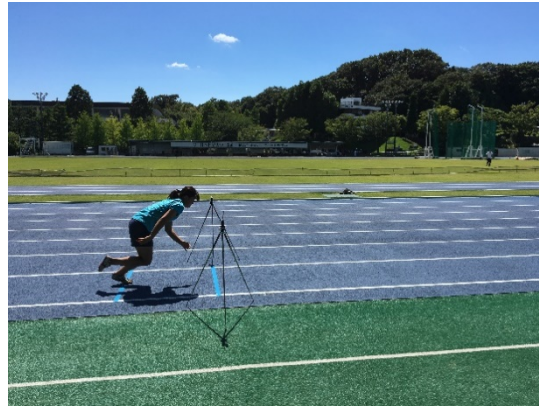
(詳細)

今年度の最優先課題をボブスレー女子ブレイカー発掘と位置づけ活動した。即戦力となる選手をリクルートするために、大学陸上部を中心に協力を呼び掛けた。その中で、日本体育大学、東京女子体育大学、大東文化大学からトライアル参加者を得ることができた。特に日本体育大学では測定会を開催していただくことができ、27名の選手を測定することができた。また選考選手の活動についても学内協力をいただき、非常に有効な関係を築くことができた。日体大陸上部監督にも多大なる協力を得ることができた。東京女子体育大学、大東文化大学についても、陸上部指導者の理解があったからこそ選手発掘が可能となった。他にも陸上関係を中心に多くの指導者に協力をお願いしたが、実際の測定参加には至らなかった。種目転向には指導者の理解を得ることが必要不可欠となるため、今後もより多くの協力が得られるよう、関係構築に努めたい。

結果として、発掘した君嶋選手が押切選手のブレイカーとして、EC 優勝、WCH7 位という好成績を収めたことは特筆すべき成果であり、今年度の目標を達成することができたと考えている。

一方で、北京オリンピック以降を目指した選手発掘については、来年度以降の継続課題である。12月初旬に体験会を企画したものの、参加者が得られず開催に至らなかった。しかし、これらの企画を通じて、新たな選手が滑走する際に検討すべき内容(選手登録、保険などの課題)が整理できたことは収穫であり、来年度以降の計画に活かすことができる。

11月、12月に日本スポーツ振興センター(JSC)が開催したNTIDタレント発掘事業に参加したことで、有望選手を6名選考することができた。平成29年度に検証プログラムを行い、競技を経験し適性を評価する予定となっている。有望選手のうち3名は1月のチャレンジカップを見学に来るなど、競技に対して意欲的であり来年への期待が持てる。また、この事業に参加したことをきっかけに愛媛県のタレント発掘事業とのつながりができ、平成29年度に協力した活動を行う計画となっている。



日体大でのトライアウトの様子

◆若手選手の育成、選手教育

【結果】

- ・若手選手対象育成合宿（7/9.10 8/20.21 9/17.18 10/1.2）計4回 延べ70名参加
トレーニング 栄養 心理 トレーニング科学 チームビルディング 英会話

【成果】

- ・参加選手たちは、アスリートとして必要な知識を得ることができた。
- ・選手同士のコミュニケーションが深まり、互いに競い合い高めあうチーム作りができた。
- ・合宿についてのアンケートで、参加選手のほぼ全員が「満足」と答えており、「次回も参加したい」と回答した。
- ・連盟医科学委員（栄養士：清野氏）、JISS、JOC、外部講師など、多くの専門家の協力を得て、高いレベルの講習を実施することができた。

【反省】

- ・合宿を東京で開催したため、地方の選手の参加が難しい場合があった。
- ・参加選手の交通費、宿泊費等自己負担で実施せざるを得なかった。

（詳細）

26歳未満の若手選手を対象としてナショナルトレーニングセンター(NTC)での合宿を計4回実施した。若手選手を対象とした合宿は初めての取り組みであった。合宿を通じて、選手たちはアスリートとして必要な基礎的知識を学習することができた。また、選手同士やスタッフも含めたコミュニケーションが深まり、切磋琢磨しながら共に高めあうチーム作りができた。それぞれの講習に対して、選手たちは非常に積極的に参加する姿勢が見られ、参加に必要な費用は自己負担であったにも関わらず、多くの選手の参加が得られた。合宿後のアンケートでは、ほぼ全員の選手が「満足」と答えたことから、有意義な合宿を行うことができたと感じている。

12・1月に長野で滑走している際に、スタッフ、選手がコミュニケーションを良くとれている場面が見られたことも合宿の効果と感じられた。ちなみに、合宿に参加した宮嶋選手は NAC で優勝の成

果を収めた。育成合宿を通じて、選手同士が仲間でありライバルとしての関係性が築けたことは、今後の競技力向上につながると考える。

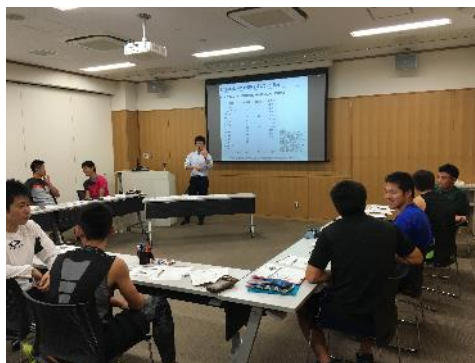
JOC、JISS、外部講師の講義が好評だったため、今後も外部機関との連携を続けていきたい。また、医科学委員で栄養士の清野氏には、競技への理解や選手との関係を深めていただき、全日本選手権を視察いただいた。講義後に選手から講師の先生方への個別相談も寄せられている。今後も講義などの機会を活用して、協力者のネットワークを広げていきたい。

来年度以降は、ルール、ソリなど道具の扱いに関する講習も検討する。

また、選手から出された冬季開催要望も検討する。

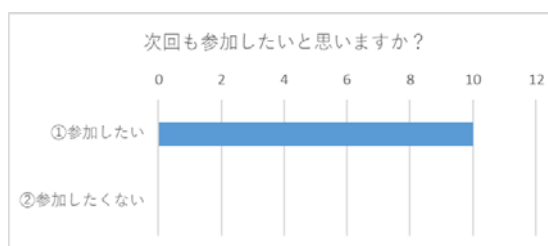
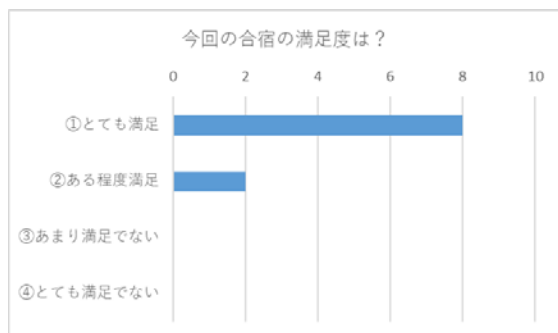


トレーニング講習の様子



スポーツ栄養講義の様子

第4回目合宿終了後のアンケート結果（一部抜粋）



◆その他

- ・日本スポーツ振興センター「アスリートパスウェイ戦略的支援」委託事業へ応募
⇒不採用
- ・スポーツくじ助成金「将来性を有する競技者の発掘育成活動助成」への申請
⇒採択

活動資金を獲得するために、委託事業や助成金への応募を行った。スポーツくじ助成金の申請が採択されたことで平成29年度の活動に対する助成を得られることとなった。これにより発掘育成の活動をさらに進めることができる。JSC再委託事業や各種助成金についても情報を収集し、応募可能なものには積極的に挑戦したい。

また、選手が公募できる助成金も多数あり、応募支援も行った。選手が活動資金を得るために、今後は選手への積極的な情報提供も検討する。

《医科学情報部》

平成 28 年度の活動として計画した内容は、「①ドーピング講習会の実施」「②スパイラル通信（ボブ・リュージュ・スケルトン競技の国内外の情報発信）の強化」「③医科学的サポートの展開」「④JISS スポーツ栄養サポートグループとの連携・強化」であった。

◆ ドーピング講習会

- ・世界アンチ・ドーピング機構(WADA)が主催する「International Anti-Doping Seminar 10th Anniversary」に参加し、教育プログラム実施方法の知見を得た。この教育プログラムについては、次年度から研修会で実施するプログラム内容に人材開発部で工夫を加える事を確認した。又、室伏さんが考案した“MO”も、オリンピック強化指定選手のアンチドーピング教育プログラムとして医科学情報メンバーで情報共有した。
- ・4月30日にNTCを会場として平昌五輪出場予定のオリンピック強化指定選手9名とスタッフ8名の17名でアンチドーピング啓発活動を実施した。五輪直前に気を付けるサプリメントや薬について選手・スタッフで情報共有し、日本連盟からは誰一人違反者を出さないことを確認した。

◆ スパイラル通信（ボブ・リュージュ・スケルトン競技の国内外の情報発信）の強化

- ・スパイラル通信として年2回選手や都道府県連盟に国際連盟の動向やスパイラルでの強化・普及活動について情報発信した。情報発信が少ないという反省をもとに、国内外の医科学情報の量と質の向上に努めることが今後の課題である。

◆ 医科学的サポートの展開

- ・全日本ボブスレー・スケルトン プッシュ選手権大会において、今年度も参加選手全員のタイム分析(初速、加速度、ピッチとストライド)を実施した。分析結果については選手全員にフィードバックし競技力向上のツールとして利活用した。

◆ JISS スポーツ栄養サポートグループとの連携・強化

- ・清野部員の協力を得て、JISS スポーツ栄養サポートグループとの連携・強化を構築できた。また人材開発部と栄養サポートについても連携し事業展開できたことは成果の一つである。

(3) 大会・審判委員会

《大会運営部》

大会運営部の主たる業務として、前述 3. に記載されている国際大会並びに本連盟主催大会の運営を行った。

28 年度は昨年度の課題解消を図るために、ボブスレー及びスケルトンのプッシュ選手権大会の 8 月上旬開催及び、リュージュにおけるアジア選手権大会と全日本選手権大会の兼用大会の開催を行った。

大会運営は、参加した競技役員らの努力、参加選手等の協力もあり、ほぼ日程案どおりの円滑な大会運営であったが、1/21～22に開催したJBLSF チャレンジカップ大会及びJOC ジュニアオリンピックカップ競技会は、前夜の大雪・着雪の影響でスパイラル全体の電源が落ちてしまったため、リュージュ及びスケルトン女子ジュニア1本目滑走後の大会がすべてキャンセルとなってしまい、大変残念な結果であった。

しかしながら、こうした変更日程や突発性の事故への対応も含めて総じて良好な大会運営となったことに、改めて、道府県連盟を含む関係各位に感謝申し上げたい。

なお、29年度は、運営主体は会場地元の長野県連を中心、全ての連盟の協力を得ながら大会運営に当たることとなるが、スパイラルの平昌五輪後の運営休止方針を受けて、30年度以降の大会のあり方について検討を図る必要性が生じている。

《審判部》

審判部は今年度、大会運営に必要な不可欠な競技役員らの有資格者をより多く確保し、スキル向上を図るための取組を全国的に行った。

前述4.に記載の通り、ここ数年、各加盟団体における審判資格講習会あるいはルール講習会が開催され、競技役員らの有資格者が増えてきていることで、多くの大会参加者が規則や運営側の考え方を理解し、より円滑な大会運営に結びついてきているといえる。

また、国内大会出場選手に対して基本的なルール及びマナーを事前に周知することも、円滑な大会運営や選手強化に結びつくものとして、国内大会出場を目指す選手のためのベーシックガイドを毎年度更新しながら活用している。

なお、「次世代の国際審判員資格者」の確保は、国際大会審判の経験により、世界的な現状を理解することに大変有益なことから、切望するものである。

(4) コンプライアンス・倫理委員会

当年度は開催無し。

7. 連盟の概況（平成28年5月31日現在）

(1) 加盟団体に関する事項

加盟団体名	代表者
北海道ボブスレー・スケルトン連盟	石川 裕一
北海道リュージュ連盟	長島 邦夫
宮城県ボブスレー・リュージュ連盟	大沼 迪義
長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟	北村 正博
大阪ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟	藤原 達治郎

(2) 正会員に関する事項

氏 名	所 属 連 盟
石川 裕一	北海道ボブスレー・スケルトン連盟
堀江 三定	長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
藤原達治郎	大阪ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
五味 康昌	有識者
高山 崇彦	有識者

(3) 役員に関する事項

役 職	氏 名	所 属 先
代表理事会長	北野 貴裕	北野建設株式会社
理事副会長	北村 正博	株式会社システックス
専務理事	松橋 達生	トライアン株式会社
理 事	石川 裕一	株式会社ぷらう
理 事	鈴木 省三	仙台大学
理 事	加藤 英俊	仙台大学
監 事	早川 吉春	霞エンパワーメント研究所
監 事	立川 宏	株式会社北洋銀行
顧 問	五味 康昌	三菱UFJ証券ホールディングス株式会社
顧 問	水野 誠一	株式会社 IMA
顧 問	高山 崇彦	TMI 総合法律事務所

(4) 常置委員会に関する事項

委 員 会 名	委 員	備 考
総務委員会		
委 員 長	松橋 達生	日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
委 員	山本 忠宏	日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
〃	古川 靖彦	北海道ボブスレー・スケルトン連盟
〃	伊藤 徹	北海道リュージュ連盟
〃	大槻 誠	宮城県ボブスレー・リュージュ連盟
〃	藤牧 博和	長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
〃	船橋 宏哉	大阪ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
競技委員会		
委 員 長	鈴木 省三	
副委員長	百瀬 定雄	
委 員	大石 博暁	ボブスレー強化部長
〃	戸城 正貴	リュージュ強化部長
〃	住澤 祐樹	リュージュ強化部長補佐
〃	越 和宏	スケルトン強化部長
〃	百瀬 定雄	指導者養成部長
〃	居石 真理絵	人材開発部長
	鈴木 省三	医・科学部長（兼務）

大会・審判委員会		
委員長	小林 忠 司	
委員	藤 牧 博 和	大会運営部長
〃	寺 澤 政 俊	〃 副部長
〃	小 林 忠 司	審判部長（兼務）
〃	寺 澤 政 俊	〃 副部長（兼務）
〃	前 田 昌 也	大阪ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
〃	岡 本 信 吾	北海道ボブスレー・スケルトン連盟

(5) 登録競技者に関する事項

①審判員（うち国際審判員）

ボブスレー・スケルトン	73名	(B10・S2)	計117名
リュージュ	44名	(10)	(22)

②強化スタッフ（うち JOC 強化スタッフ）

コーチング	36名	(36)	
マネジメント	3名	(3)	
情報・戦略	0名	(0)	計46名
医・科学	7名	(7)	(46)

③選手（うち JOC オリンピック強化選手）

ボブスレー	75名	(11)	
リュージュ	33名	(3)	計181名
スケルトン	73名	(5)	(19)

※ JOC オリンピック指定強化選手・強化スタッフは別紙に一覧表を記載。

(6) 事務局に関する事項

氏 名	職 種
久 田 一 郎	事務局長
南 澤 光 弥	事務局次長
山 本 忠 宏	事務局次長
山 寄 雅 弘	事務局（経理）
田 中 沙 夜 香	事務局（経理）